



## 3月市議会 一般質問

# 巨大データセンター計画の環境影響ただす 原発避難計画や市営住宅の居住環境も追及

井上勝博市議は4日の市議会一般質問で、サーキュラーパークに計画されている350メガワット規模のAIデータセンターの環境影響や行政判断のあり方をただしました。また、川内原発の要支援者避難計画、市営百次住宅の過酷な居住環境、人工内耳紛失時の支援制度など、市民生活に直結する問題について市の姿勢を問いました。

### データセンター 温室効果 ガス排出は市全体の2倍

井上議員は、産業パークに計画されている350メガワット規模のAIデータセンターについて、「フル稼働すれば年間約30億kWhを消費し、一般家庭約77万世帯分に相当する」と指摘。薩摩川内市の世帯数の約20倍に当たる規模だと強調しました。

ニュートラル宣言」を掲げていますが、井上議員は「これほどの排出が想定される施設について、市として独自の判断基準や評価を持つべきだ」と追及しました。

さらに九州電力の排出係数で試算すると、年間の二酸化炭素排出量は約138万トンにのぼり、市全体の排出量(約63万トン)の2倍以上になる可能性がある」と示しました。

市は2050年までに温室効果ガス排出ゼロを目指す「カーボン

### 原発事故時 避難計画 未策定が78人

川内原発の原子力防災についても質問しました。

### 避難計画 未策定が78人

井上議員は「市は覚書で事業に協力するとしているのに、環境影響について判断基準を持たないのは無責任ではないか」と批判しました。

市の説明によると、原発から5キロ圏内(PAZ)に住む避難行

### ご案内 非核の政府を求める鹿児島県民の会 学習講演会

「非核の政府の実現をめざして—『非核の神戸港』運動の半世紀のあゆみに学ぶ」

講演 梶本 修史さん

日時 2026年3月14日(土)  
14時30分～17時

会場 鹿児島市国際交流センター  
研修室1

(鹿児島市加治屋町19-18)

資料代 500円

連絡先 井上勝博 080-3996-0237

動要支援者は288人。このうち78人は個別避難計画が未策定のままとなっております。

市は「消防団などが確認し、取り残すことがないよう対応する」と答弁しましたが、井上議員は「現実には極めて困難だ」として、原発依存からの転換を訴えました。

井上議員は「事故が起きたとき、計画がない人をどうやって避難させるのか」と指摘。原子力規制委員会の元委員長が「どれだけ努力しても事故は起きる」と述べていることも紹介

市は「消防団などが確認し、取り残すことがないよう対応する」と答弁しましたが、井上議員は「現実には極めて困難だ」として、原発依存からの転換を訴えました。

市営百次住宅についても住民から相談が寄せられていると質問しました。

住民によると、夏は二階の室温が50〜56度になることがあり、冬はコンクリートが冷え込み暖房が効きにくいなど、健康への影響が懸念される状況だとい

### 百次住宅 「室温50度」 住環境を指摘

井上議員は「まず実測調査を行うべきだ」と求めました。

(二面に続く)



# エプロンおばさんの 簡単クッキング (696)

## ワカメ湯豆腐

材料 (2人分)

豆腐1丁、千切りショウガ1片分、カットワカメ・ごま油各適量。

A (水600ml、昆布1×5cm1枚、塩小1/2、しょうゆ大1)。

B (しょうゆ・ごま油・かつお節各適量)。ラー油適量 (好み)。

### 作り方

- ①鍋にAを入れて火にかける。豆腐は食べやすく切る。
- ②沸騰したら豆腐・ワカメ・ショウガを入れ、さっと煮てごま油を回す。
- ③鍋ごと出し、混ぜたBのタレにつけて食べる。Bにラー油を混ぜてもよい。

(1面から続く)

市は「聞き取りは行ったが実測はしていない。必要であれば実測も検討する」と答弁しました。

また、市は百次住宅について将来的に用

途廃止とする方針のため、断熱改修などの大規模改修は予定していないと説明しました。

井上議員は「用途廃止の方針よりも住民の命と健康を優先すべきだ」と改善を求めました。

## 人工内耳紛失 支援制度の検討求める

人工内耳を紛失した小学生の家庭から相談

が寄せられている問題も取り上げました。

人工内耳は片耳でも約100万円と高額ですが、薩摩川内市では給付制度の対象外となつています。

井上議員は、他自治

体では日常生活用具として給付対象にしていく例があることを紹介し、制度導入を求めました。

市は「他自治体の事例を調査し検討したい」と答弁しました。井上議員は「市民の命や生活に関わる問題について、行政は主体的に判断し責任を果たすべきだ」と強調しました。

## 柏崎刈羽原発再稼働の裏側 ゼネコンと政界が動く「原発ビジネス」

原発再稼働をめぐる動きの裏側を暴く調査記事が、月刊誌『文藝春秋』三月号に掲載されました。ノンフィクション作家・森功氏による「柏崎刈羽原発再稼働『工作』の内幕」です。

記事によると、東京電力は新潟県にある柏崎刈羽原発の再稼働を実現するため、政界や関係機関への働きかけを重ねてきました。背景には、電力会社だけでなくゼネコンなど巨大企業の利益がある指摘されています。原発の再稼働や改修工事には莫大な費用が動き、建設会社にとっては巨大なビジネスになるからです。

福島第一原発事故から十五年になろう

しかし忘れてはならないのは、福島原発事故がいまだ終わっていないという事実です。事故処理は長期化し、被災者の生活再建も十分とは言えません。それにもかかわらず、原発再稼働が「経済」や「電力需給」の名のもとで進められているとすれば、重大な問題です。

原発政策は一部の企業や政治の都合で決められるべきものではありませぬ。事故の教訓を真剣に受け止め、国民の安全と将来のエネルギーのあり方をどうするのか、改めて問われています。

※「シネマ太郎の映画評と案内」は筆者の都合によりしばらく休みます。

## 中俣先生の つれづれなるままに (827)



←中俣先生のブログはこちら

政治が右へ右へと大きくカブを切つて流れていく。当然のことだろう。戦争を知らない世代が国会議員となつていくのだから。議員先生たちは胸をさらしても、学校で近代を教えるつもりでないし、たとえ教えられても、原爆で数千人死んだという被害者意識だけ。これでは左を向きようがない。戦争を知らないと言ったが、うちの孫が「戦争を知らないから知覧に行く」といったのには驚いた。家族4人で出かけて行って、「じいちゃん、じいちゃんを襲った機銃の弾はもうないの」と上の孫が言ったのにも驚いた。「これはね、一歳にも満たないじいちゃんを狙った機銃の弾だよ」と言つて渡したの。それを失くすとは。私の戦争体験を語るに、ふーんとだけ聞いて感動しなかつたのだから。しかし、知覧で戦争の重みを感じたのだ。それは一歳にも満たない私が、12年上の兄の背に負わられていたときのことだった。「タカノイ(兄)、井戸堀に隠れる」という父の叫びとともに、グラマンが低空で私たちに襲つたのだ。グラマンが去つたあと父は、庭に落ちた機銃の弾と葉莢を拾ひ神棚に置いた。考えもなしに私はその葉莢でピストルを作った(当時遊び仲間では遊んでいた)。弾は手に転がして遊んでみた。葉莢はその後、警察の捜索が入ると聞き、土深く埋め、弾だけが私の手元に残った。それを戦争を語つたつもりで渡したのだったが、これからは戦争を語る必要はない。削つて暮らしていると、訴え続ける方が実感があるであろう。(詩愛好家)

